

横浜キネマ俱楽部  
第52号 会報  
2018年12月24日発行

第52回上映会

# 孤獨の人

西河克己監督作品

1957年／日本／モノクロ／82分／DVD上映



(C) 日活

2018年12月24日(月・祝)

[上映時間] 13:30

[講 演] 15:00~16:00 講師:高崎俊夫さん(映画評論家)

[会 場] 横浜市南公会堂

# 孤獨の人

## [物語]

皇太子(黒沢光郎)が籍を置く学習院高等科三年は特殊な学年だ。千谷吉彦(津川雅彦)は、殿下を勢力争いや虚栄の道具としか考えない殿下の学友たちを軽蔑し、反発していた。吉彦の親友・岩瀬徹(小林旭)は殿下の学友の中では毛色の変ったバンカラ派で、吉彦と同じように殿下をなんとか人間らしい皇太子に戻そうと考えていた。殿下が悲しい人物のように思えてならなかったのだ。吉彦と岩瀬は、こういう空気に反発するかのように自由に振舞った。叔父と別れた叔母にあたる朋子(月丘夢路)と交際していた吉彦は、その関係を両親に叱責されればされるほど、反抗した。岩瀬にも恋人(芦川いづみ)がいたが、彼は恋人については語らなかった。修学旅行が奈良に決まると、新聞はそれを報じ、通過駅では日の丸の波と万歳三唱が彼等を迎えた。殿下からの信任の厚い京極(青山恭二)や舟山(秋津礼二)たちが、殿下の傍で新聞社のフラッシュを浴びている姿も、吉彦と岩瀬には鼻持ちならない。京極らが殿下を囲んでトランプをしていたある夜、トランプの間から落ちた一枚の写真に殿下は眼をとめた。皇太子と鳥羽頼子が御一緒の写真だった。ある日、岩瀬と吉彦は乗馬で遠乗りを企て、殿下と鳥羽頼子とを会わせようと試み



た。殿下からの招きと聞いた鳥羽頼子は、承諾した。吉彦は、徳大寺侍従に殿下の遠乗りを許可するよう迫るが…。

(C) 日活



## 【スタッフ】

監督・・・西河克己  
原作・・・藤島泰輔  
脚本・・・中沢 信  
撮影・・・高村倉太郎  
音楽・・・斎藤高順

## 【キャスト】

千谷吉彦・・・津川雅彦  
皇太子・・・黒沢光郎  
岩瀬徹・・・小林 旭  
淳子・・・芦川いづみ  
舟山・・・秋津礼二  
京極直輔・・・青山恭二

警衛・・・阿部 徹  
東大寺朋子・・・月丘夢路  
松井勝・・・芦田伸介  
栗本主任・・・大坂志郎  
竹田教師・・・中川晴彦  
東大寺侍従・・・澤村國太郎  
大夫・・・坂東好太郎

日活ホームページ・映画・孤獨の人(孤獨の人) /Yahoo! 映画

## 【 西河克己監督 プロフィール 】

1918年(大正7年)鳥取県生まれ。1922年(大正11年)上京。  
原研吉、渋谷実、中村登らの名匠に師事し、1952年(昭和27年)助監督待遇のまま『伊豆の艶歌師』(主演:佐田啓二)を初監督。2本立て映画の1本、いわゆるシスター映画であった。1954年(昭和29年)の日活映画製作再開と同時に、日活と監督契約した。山本有三原作による社会派メロドラマ『生きとし生けるもの』(主演:山村聰)を第1作。「西河克己といえば吉永小百合もの」といわれるくらい、1960年代に入ると『若い人』(主演:石原裕次郎、吉永小百合)、『青い山脈』(主演:吉永小百合)、『伊豆の踊子』(主演:吉永小百合)、『エデンの海』(主演:高橋英樹、和泉雅子)、『帰郷』(主演:吉永小百合)などの作品でその才能を遺憾なく発揮し、日本映画の全盛期を飾った。

1954年(昭和29年)松竹から日活に移って、プログラムピクチャーを多く監督した1950年代 - 1960

年代は、文芸・アクション・青春ドラマ・歌謡映画・メロドラマと多種多様のジャンルの広さで活躍。テレビ界に進出した1970年代前半を経た後、東宝映画にて映画界に戻り、ホリプロ(元会長:堀威夫)に吉永小百合作品を監督した経験から、山口百恵・三浦友和のゴーレムコンビで1974年(昭和49年)『伊豆の踊子』をリメイクする事になる。その後、『潮騒』『絶唱』『エデンの海』のリメイク作品や『春琴抄』を監督。その新鮮さと斬新な監督技法は、日本映画界の中でも歴史に残る作品であり、代表作にリメイク作品が多いというのも特色である。また、60歳を過ぎてからも森昌子、秋吉久美子、小泉今日子、松永麗子、富田靖子らの主演作を制作し、西河作品のスクリーンに「アイドル」を追いかける観客は2つの世代にわたることになった。

2010年(平成22年)肺炎で死去 91歳没

Wikipediaより抜粋

## 【 講師 : 高崎俊夫さん プロフィール 】

映画評論家 1954年 福岡県生まれ。  
『月刊イメージフォーラム』の編集長を経て、フリーランスの編集長に。  
『キネマ旬報』『CDジャーナル』『ジャズ批評』に執筆している。  
手がけた単行本は『ロバート・アルトマンわが映画、わが人生』『オペラとシネマの誘惑』など多数、著書に『祝祭の日々:私の映画アトランドム』がある。

# .....アンケート集計結果.....

## <2018年9月22日 第51回上映会「どっこい！人間節」>

来場者数： 279 アンケート回収数：53枚

回答率： 19.0%

### 作品についての評価

● とても良かった	23枚	43.4%
● 良かった	23枚	43.4%
● あまり良くなかった	3枚	5.7%
● 良くなかった	0枚	0.0%
● 無印	4枚	7.5%

- 名もなき人こそ、説得力のある言葉を若者たちに与えられるのかなど強く思った。共に生きることを希望に生きます。
- 43年前に見られませんでした。今日みさせていただいて、ほんとに良かったと思います。大切なことはすべて語られ、セブンさんはじめ唄もスバラしかった。中でまとめ役のような方が声高で、主張する(語る)ときは、静かに話すことの大切さを実感しました。当事者たちの思い余る声は美しいです。
- 社会的に目がさめるような映画と思う。この映画は40年振りだった
- 寿町のかつての風景、生きていた方々、くらし、思いが生々しく感じられました。レンタルビデオ屋やネットで見つからなかつたので、ありがたい機会でした。
- 日本がまだ元気だったころ、なつかしいです。人情に泣きました。
- 非常に興味深い内容だったので来てよかったです。43年前の映画とは思えず新鮮な感じがしました。ききとりづらい所もあり、字幕があれば良かったと思います。
- 少々くどかった。音声が聞き取りにくい。
- 聞きとれなかった。
- 10代の頃から寿町が気になっていました。この映画をこの寿町で観られてよかったです。生きるという事を考えさせられました。一人一人の生きる様にグッときました。
- 話を耳にしているだけでなく実態をかい間見て底辺に生きる人もそれなりの人生をそれなりに生きていて、それも人生と思いつつ、格差の問題はいつも忘れてはならない解決に向け努めなければならぬと強く思いました。唄というものは力になるものだ。人々の口々、どんなときにものぼるものだと思いました。
- 音声が聞き取れない部分が多くあった。
- 何回も見た！寿町在住労働者として色々考えさせられる。事情とかではなく実際に夏祭りや越冬を現場でやっている人間として今の寿町の事務局人間のあり方を問う。命がけで行政と現地をつないできた生活館の加藤さんに対して、今の生活館の何人かは申し訳なくないのか？寿町はかわりつちある。口だけで実際やってることはウラハラ。だから町の人間から反感をかうのだ。外面だけじゃ町はよくならない。映画に関する意見銀色の道のかえ歌をうたってた筋ジストロフィーの高橋さんの秋田の民謡があまりに重く、あまりにせつない。最下層の人間の思？を感じる。それが寿町だ！！ジョーと朝鮮の(在日)人の言い合いが両極の考え方を表している。底辺の人間の考え方の表と裏だ！！乱筆失敬！
- 話していることが良く判らない事が多いのが残念。もう少し(日本語なのに変だが)字幕を入れざるを得ないのでは。

### シンポジウムについての評価

● とても良かった	29枚	54.7%
● 良かった	14枚	26.4%
● あまり良くなかった	0枚	0.0%
● 良くなかった	0枚	0.0%
● 無印	10枚	18.9%

- 加藤さんはとてもよかったです。ps. 加藤さんが追加でおっしゃった事について生保受給者同士の仲間をつくるというのは本当に理想であり必要であるが仲々その場がない！勤労協の本店などでも諸々のもよおしを行っているが。。。生保受給者同士の仲間をつくるというのは本当に理想であり必要であるが仲々その場がない！そこで大事なのが寿夏祭りである。越冬は生きるための場。夏祭りは数少ない仲間をつくるその場といえる。特に盆踊り、物故者供養、最期の寿エイサーはその極めである。一般の人にももっとよく知ってもらいたいし、又見にきてほしい。よろしくお願ひしたい。
- 寿町の様子、住む人それぞれの考えがわかりました。
- 寿町の過去から未来へ向けてのお話が聞けて良かったです。以前からとても興味がありました。「生き抜く」この言葉が心に響きました。
- 1994(H6)、4月～1997(H9)、3月、寿に関わらせていただきました。寿の方々から本当にたくさんのこと、人の優しさを教えていただきました。本日の映画、素晴らしかったです。私が寿に入っていた時とは大分違った町の様子、人々の様子、を知ることができ、有り難く思います。加藤先生、高沢さんのお話を柔軟に受けました。これから考えていかなければならないことを教示いただき、感謝しています。
- 質問：①無理かもしれないが、政治を問題にする時、選挙の投票には行っているの？②学歴は高卒で十分。その人の特意なことを見つける方がよい。(最低教育(中学)は必要だが)
- 生活館に居られたり、寿町をよくご存知の方々のお話を聞いて、映画をさらに深く楽しめました。
- 高沢さんの長年にわたる活動の継続に感服しました。その熱意に経緯を表します。がんばってください！
- おふたりの生き方も感動します。
- 話はきかないわかららないなと思いました。
- 高澤さんも時々早口の所あり、聞き難かった。
- 耳が不自由です。僕の場合、ゲストの音声を会場内にFM波で流してくれたら聞くことができます。高澤幸男氏の話は聞きたかった。残念。(会話は一言も聞き取れません。)

日本三大寄せ場のひとつ 横浜港の  
ドキュメンタリー映画

(1)

「ど、二！人肉節へ妻・自由労働者の街へ」  
につけで少々かかせていただきます。

妻在住の労働者であり木暮の実行委員会  
に属している私は参考のため今まで何度も  
「ど、二！人肉節へ」を観てきました。

先日も石川町の労働プラザで上映会があり  
ので又観に行ってまいりました。その時答えた  
アンケートがまだかかれており横浜キネコ倶楽部  
の方々と肉わらさ持ち会報の一文を書か  
せていただいたところ次第です。

時はオイルショックの時代。

仕事を全くなくなってしまった労働者達は  
生活会館に集まり来ます。

越冬実行委員会が発足され仲間の命は  
仲間が守る！をスローガンに火災を出しか  
開始されました。映画の冒頭にもあります  
様に妻のいう所は仲間のともどりにも  
警察がついて又回す所です。西部の街！

無法地帯の流木者の寄せ場！ 二木が今も  
かわづぬせ間から見た差別と偏見の  
レッテルです。でも本当はどうなのでしょう？  
单なる荒くれ木が住むたりの そんな所  
なのでしょうか？

私はNO!と答えたい。

(2)

映画上出て来るオッサン達をみて  
人情味あふれるユニークな人達ばかりじゃ  
ありませんか。 うるさい金田町の子供た  
やつてしまい「ありがとう!」とか礼を言われ  
自分の生き様に人情味を取りもどす前科者。  
そのオッサンの追憶で町のシニガーハチア  
とオッサンの日記を唄いあげる。 ニホンが  
人情節のもので、アル中の人も出てきます。  
養生生活館の共同生活で三年を周りにさるる  
人情模様…本気で三立玉ながむ圧力に  
抗う青年が苦悩する在日の青年に向ひ続ける  
場面は演じぬきの本音の物語です。  
筋ジストロフィーのオッサンが言った言葉も忘れねえ。  
「おの様な者でも皆と平等に生きいく社会が  
来なくていい! きっと来る! きっと来る!」  
でも…「体調でオレは生きれないだろなあ。」  
口呼吸困難をドヤの仲間達と目通りされ、そのオッサンは  
三度ながら口に語るのである。 そのあとオッサンには  
「銀色の道」を唄ふ。 空虚を見つめて…  
底辺社会を以て死に生きぬく人間ドラマ。  
「どうせ! 人情節へ素・自由労働者の街へ」  
一人でも多くの方に是非観ていただきたい  
映画です!! 亂筆にて失礼しました。

素在住労働者 長澤三告一 様

## 映画クイズ

・ ・ ・ クイズ作成者：運営委員 服部 ・ ・ ・

(日本映画編)

1、「万引き家族」で今年のカンヌ映画祭パルムドールを獲得した監督は誰でしょう？

ア、北野武 イ、黒沢清 ウ、是枝裕和 エ、橋口亮輔

2、今年のカンヌ映画祭パルムドールを獲得したのは「万引き家族」ですがアからエの作品のうちカンヌ映画祭最高賞を獲得していない作品は何でしょうか？

ア、「うなぎ」 イ、「地獄門」 ウ、「羅生門」 エ、「楳山節考」

3、「万引き家族」でカンヌ映画祭パルムドールを獲得した監督（①の答え）の他の作品を選びなさい。

ア、「ディア・ドクター」 イ、「川の底からこんにちは」

ウ、「東京公園」 エ、「奇跡」

4、今年亡くなった樹木希林は「万引き家族」でカンヌ映画祭パルムドールを獲得した監督（①の答え）の作品に何作品か出演していますが（「万引き家族」にも出演している。）、アからエの作品のうち出演していない作品を選びなさい。

ア、「海街 diary」 イ、「歩いても 歩いても」 ウ、「三度目の殺人」

エ、「そして父になる」

5、カンヌ映画祭が始まった年は何年でしょうか？

ア、1927年 イ、1932年 ウ、1946年 エ、1951年

---

(日本映画編)

1、ウ 2、ウ 3、エ 4、ウ 5、ウ

## 映画『シュレック』～ディズニーへの挑戦状！～

ここで取り上げる作品はドリームワークス製作の映画『シュレック』です。主人公の怪物・シュレックがドラゴンの居城に囚われたフィオナ姫を救出し、そして2人は恋に落ちる…という、あらすじだけを聞けばディズニー感満載の当作品。しかし、実際はそのイメージの真逆を突っ走るアンチ・ディズニー作品となっているのです。

### 1. 夢想家タイプのディズニー

なぜ『シュレック』が反ディズニー的な作品なのか？それを説明する前に、まずはディズニー作品の特徴を確認したいと思います。ディズニーといえば、やはり「夢に溢れた美しい世界観」が持ち味。あまりにも美化されたそれは、時に「ディズニフィケーション」という言葉で批判的に語られるほどです。学者アラン・ブライマンによれば、これは「不快な要

素の清浄化」「文化や歴史の無菌化」の意味であるとされています。つまり、臭いものには蓋をしてしまうということ。人種問題や性的差別、人間が持つ暴力性、エロティックの排除などがその例です。実際、ディズニー映画は原作物語には存在したそのような部分をしばしば省略・デフォルメしています。

### 2. リアリストタイプのドリームワークス(=『シュレック』)

さて、一方の『シュレック』はディズニフィケーションを否定するかのような描写が多々あります。その例を一部紹介しましょう。

まず挙げられるのは、単純に汚い描写が多いこと。シュレックは初登場シーンでいきなり大便をして、泥でうがいをし、オナラで沼にいる魚を殺してしまいます。そもそもシュレック自体、なんだか汚らしくてかわいく

ない。全身緑色で小太り、おまけにゲジ眉。しかも妙に写実的なキャラクター・デザインが施されている。ディズニーならばもう少し愛着を持てるキレイなデザインにしたはずです。

次に注目したいのは、残酷なシーンが含まれていること。たとえば、人型クッキーのキャラクター・クッキーマンが拷問にかけられる場面があるのですが、彼は足を折られたり、ミルクに浸されて窒息しかけています。

クッキーだから平然と觀てしまいますが、よく考えると残酷なシーンです。

このほか、ヘビとカエルが体内に空気を吹き込まれ風船のように空へ飛んでいくシーンもあります。彼らはそのうち破裂してしまったことでしょう。

このように作中では人間が持つ残虐性がさりげなく描かれているのです。

極めつけは直接ディズニーを皮肉るようなシーンが見受けられること。

白雪姫は「7人の男と清らかな同棲をする女」とアイロニカルに呼ばれているし、ロビンフッドはプレイボーイ風のスケベな感じで描かれている。

以上に示したような、どこか冷めた眼差しで表現される現実主義的な描写は、ディズニーに対する対抗意識の表出であると思われるのです。

&lt;&lt;&lt;&lt;&lt;

## キネマ俱楽部のページ

&gt;&gt;&gt;&gt;&gt;

## 3.『シュレック』は現実的だが夢がある！

しかし、この作品はただアリスティックを追求しているだけではありません。矛盾しているように思えますが、夢に満ち溢れているのです。その象徴的なシーンがフィオナ姫の呪いが解けるシーン。実は、彼女には「夜だけ怪物の姿になってしまう」という呪いがかけられていきました。定石通り運命の人とキスを交わして真の姿を取り戻すわけですが、シュレックとキスをして手に入れたのは怪物の姿だったのです。私は決まってここで涙してしまいます。決

して本来あるべき幻想的なエンディングではないけれど、彼らはそこに幸せを見出している。ここに「現実は美しいことばかりじゃない。けれどもそれがどうした」というメッセージ性を感じてしまうのです。そして「もっと現実世界を肯定的に捉えてもいいのではないか」という夢と期待を感じてしまう。その意味で、『シュレック』は“夢に溢れた美しい世界”的お話だと私は思うのです。

[ 運営委員 河澄 ]

## 〈横浜キネマ俱楽部、これまでの上映作品〉

第1回 美しい夏 キリシマ

第2回 パッチギ！

第3回 カーテンコール

第4回 二人日和

第5回 ゆれる

第6回 トリノ、

24時からの恋人たち

第7回 長い散歩

第8回 天空の草原のナンサ

第9回 イノセント・ボイス

—12歳の戦場—

第10回 モーターサイクル

・ダイアリーズ

第11回 恋するトマト

第12回 シッコ

第13回 歓喜の歌

第14回 赤い風船・白い馬

第15回 三本木農業高校、  
馬術部

第16回 ラストゲーム

～最後の早慶戦

第17回 マリア・カラスの眞実

第18回 ディア・ドクター

第19回 扱をたたく人

第20回 縞模様のパジャマの

少年

第21回 春との旅

第22回 小さな村の

小さなダンサー

第23回 冬の小鳥

第24回 ホームカミング

特別上映会 第1回

ミソバチの耳音と地球の回転

第25回 デザートフラワー

第26回 ハーモニー心をつなぐ

歌

特別上映会 第2回

ドーバーばあお織姫たちの挑戦

第27回 エンディングノート

第28回 旅芸人の記録

第29回 トガニ

第30回 月世界旅行・メリエス  
の素晴らしき映画魔術

第31回 かぞくのくに

第32回 警察日記

特別上映会 第3回

名もなく貧しく美しく

第33回 よみがえりのレシピ

第34回 きっと、うまくいく

第35回 日本の悲劇

第36回 ペコロスの母に  
会いに行く

特別上映会 第4回 息子

第37回 ハンナ・アーレント

第38回 標的の村

第39回 救いたい

第40回 野のなななか

第41回 ぼくたちの家族

第42回 NO

第43回 春よこい

第44回 野火

特別上映会 第5回

手のひらを太陽に

第45回 衿田巖

夢の間の世の中

第46回 父を探して

第47回 お盆の弟

第48回 祖谷物語-おくのひと-

第49回 東京ウィンド

オーケストラ

第50回 ふるさと

第51回 どっこい！人間節

寿・自由労働の街

## 次回第53回上映会のお知らせ

桂歌丸さん追悼

# 『喜劇 大風呂敷』

**2019年3月2日(土)**

上映時間 13:30 ~

講演：15:00～16:00

講師 佐藤利門さん（婚案映画研究家）

### 〔入場料〕

前壳 1,000 円 当日 1,300 円

障がい者 1,000 円 (介助者 1 名無料)

## 会場

横浜市南公会堂 南区総合庁舎内3階

045-341-1261

横浜市営地下鉄「阪東橋」駅下車 徒歩8分 京浜急行「黄金町」駅下車 徒歩14分



1967年/日本/85分/ブルーレイ上映

監督：中平康 脚本：才賀明 音楽：山本直純  
藤田まこと、桂歌丸、三遊亭円楽、柳亭小痴樂  
芦川いづみ、木の実ナナ、加藤茶、荒井注、  
高木ブー、田中邦衛、他豪華キャスト

第54回上映会も決定！！  
6月16日(日)樹木希林さん追悼「神宮希林」

横浜に映画ファンの思いが反映される映画館を作ろう！

横浜キネマ倶楽部は、横浜で永年親しまれてきた映画館の相次ぐ閉館を惜しむ映画ファンが集まり、2005年5月発足し、「横浜に映画ファンの思いが反映される映画館をつくる」ことを目標に掲げて活動を続けています。会の存在をより多くの皆様に知っていただき、映画館をつくる目標に一歩でも近づけたい、それと同時に良質な映画を上映することで、映画ファンの交流の場を提供したい、という思いで年4回の上映会を行っています。

## 横浜キネマ俱楽部会報

発行：横浜キネマ俱楽部



〒231-0062 横浜市中区桜木町1-1-56

民活動支援センター No.85

横浜キネマ俱楽部

TEL:080-8118-8502 (10時~18時)

メール:yokohama\_kinemaclub@yahoo.co.jp

HPアドレス：<http://ykc.jimdo.com>